（様式⑦-1　小学校・中学校）

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ　学校力向上プラン【学校評価書】

中学校区におけるめざす子ども像
自ら学びあきらめずに問題解決する子

堺市立野田中学校
校長　長畠　良憲

令和7年度　重点目標
「のだおんせん」
の：子どもののうりょくを伸ばし　**だ**：だれひとり取り残さない　お：**お**互いを認め合い　ん：み**ん**なで創りあげる　せ：**せ**いとファーストの　**ん**：じ**ん**権感覚あふれる学校

確かな学びの現状
・全体としては基本的な学習（授業態度・意欲、家庭学習の課題の提出ほか）や基礎的な学力を身につけている生徒は多い。一方、学習意欲に欠ける生徒や特別な支援を要する生徒(増加傾向にある)に対する適切な支援が毎年の課題である。
・野田中スタンダードを見直し、指導の基礎を共有し、主体的な学びをめざすとともに、生徒理解に努める姿勢を育む。
・発展的な学習を支援すべき生徒と理解に時間がかかる生徒に対する個別最適な指導を効果的に行うことが課題である。ICTの活用や家庭学習への指導助言などを通じて、効果的な学びを進める。
・現行のグランドデザインを基にした9年間を見越した取組を見直し、新しい学校のあり方に基づく「野田学校群」に向けての研究を進める。

豊かな心・健やかな体の現状
・道徳科の授業において、よりよく生きることについての学びを深める必要がある。
・いじめ（人権）については、絶対にいけないと思っている生徒の割合が全国平均よりも高い。一方で、他者への尊重に欠ける言動もみられる。教育活動全体を通じた人権教育を深化させ、人権感覚や人権意識の向上につとめる。また、生徒会活動などを通して、コミュニケーション力を持った生徒の育成に努めたい。
・どの学年も運動好きな生徒が多く意欲的に取り組んでいる。保健体育の授業では，毎時間筋力トレーニングを行い，3学期に行う持久走では持久力の向上と自分の心に負けない頑張り続ける精神力をつけたいと考えている。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 （●重点とする取組　★中学校区での取組）	判断基準 （評価のものさし）	評価方法	評価時期	進捗確認 （～10月）		達成状況(年度末) 自己評価		学校関係者評価
確かな学び	知識・技能	基礎基本の確実な定着 自学自習力の育成	★学力の定着を図るため、定期テストや単元テスト等をきめ細かに行い、結果分析をとおして基礎学力の定着をすすめる。	度数分布 基礎基本の正答率	テスト結果等学習成績，アンケート等	前期 年度末	○	・各種調査等の結果を見ると、基礎的な学力に関しては定着している生徒が大半といえる。 ・家庭学習を学習のサイクルの中にどう位置付けるかについては、今後も研究していく必要性を感じている。	○	・基礎的な学力に関しては、学力調査等の結果から、一定、定着していると考えられる。 ・家庭学習については、「出すこと」「提出すること」が目的になってしまっている部分も見られるので、学びの「質」について、継続して生徒とともに考えていく必要がある。	◎	・スマートフォン等を使用したSNSのトラブルなど、現代的な課題がある中で、学校だけでは対応が難しい案件が増えてきているのではないか。地域としても家庭とどう関わっていくかについては、考えていかないといけない。 ・（家庭では難しくても）学校だから担える部分もあるはずである。そういった部分については、しっかりと子どもたちを啓発してほしい。 ・家庭で、子どもと保護者が話をする機会が減っているのではないか。その部分をどうしていくのかも今後の課題と思う。 ・学校教育アンケートの「朝ごはんを食べている」といった項目の値が高いのは素晴らしい。 ・本中学校区は、家庭の安定感が高いように感じる。そのことが落ち着いた学習の雰囲気などの醸成に関係しているのではないか。 ・一方で、自己肯定感の低い子どもが多いようにも感じられる。家庭での役割（いわゆる手伝いなど）を継続して担うことがその改善に有用ではないか。 ・PTAと生徒会の話し合いの場を持つなどを通して、スマートフォンの使い方に関するルールなどを考える機会などを持つといった取組があってもよいのではないかと思う。
			・家庭学習の定着に向けた指導、工夫及び啓発を進める。（課題の在り方見直しや復習の定着を図る）	課題の提出率 アンケート回答の肯定率 （80%）	課題提出状況等	前期 年度末	○		△		○	
	授業改善	わかりやすく楽しい授業の創造 ●「学びのコンパス」を軸とした （教科・単元等に応じて） 個に応じた指導方法の工夫と改善	★指導方法、教材等を工夫改善し共有する。 ●小集団による主体的な研修を通して「学びのコンパス」の考え方を軸に、生徒が主体的に学びに向かう授業の在り方などについて検討を重ねる。	すべての教員が(公開授業・参観)を実施する。アンケートの肯定率(80%)	テスト結果 アンケート等	前期 年度末	○	・わかりやすい授業に関して、まだまだ教師からの一方公的な授業も見られるため（単元等の性質上仕方のないものは除く）、生徒が主体的に学ぶための授業について、継続して学んでいく必要がある。 ・ICTの活用に関しても、「使うこと」ではなく「なぜ使うのか」や「それによる効果は何か」といった部分を深めていけるよう、学校全体が理解を進めるよう研修等を継続する。	○	・生徒どうしで学びを深めるなどの学習形態を取り入れることで、目標達成に向けた授業改善が進んでいる部分も見られた。 ・少人数に関しては、より効果があるような指導法を継続して研究していく。 ・ICTの活用に関しては、教科性等の要素もあるが、使うことが目的ではなく、生徒の学びを共有するための「ツール」であるといった考えを進めていく必要がある。	○	
			●少人数指導について、実施単元、方法及び教材について工夫改善する。また、成果を定期的に考察し、指導へと活かす。	アンケートの回答（80%）	テスト結果 アンケート等	前期 年度末	○		○		○	
		ICTを活用した個別最適な学びの実現	・授業を中心としながら、多くの場面でのタブレット活用法を研究し、適切かつ効果的に活用する。	アンケート回答の肯定率 （80%）	実施実績 アンケート等	前期 年度末	○		○		○	
豊かな心・健やかな体	生活習慣の改善と確立	基本的な生活習慣の確立 ●課題のある生徒への支援の推進 基本的生活習慣を整えるとともに、体力の向上を図る。	●あいさつの励行、授業開始時間の遵守、清掃の徹底を目標に取り組む（野田中ABC作戦の実行）。 ・生徒理解を進め、原因を深く探る。	実施実績	アンケート実態 把握調査数値等	前期 年度末	○	・生徒理解については、どの教員も大切にしている。子供の意見を尊重しながら、子どもの成長のためにどんな学びが必要なのかを考え、指導できる体制や人材を育てる。 ・SCやSSW等、「チーム学校」を意識しながら専門家の力を借り、よりよい生徒理解に努めることを継続していく。また，家庭の教育力をエンパワメントするため、児童委員や民生委員との連携も進めていく。	○	・登校に不安のある生徒に対して「のだちゅうルーム」を開設するなど、学校での「居場所」づくりを進めることで、生徒の登校のハードルを下げることができた。 ・SCやSSWとの連携を意識するとともに、関係機関とも情報共有等を通して協力を依頼するなど、「チーム学校」を意識した取組を進めることができた。 ・家庭教育との連携については、今後も進めていく必要がある。	○	
			・生徒理解にもとづくきめ細かな働きかけを行う。 ・保護者、スクールカウンセラー、関係諸機関との連携を進める。	実施実績	生徒指導委員会 総括等	前期 年度末	○		○		○	
			・早寝早起き、朝ご飯を合言葉に、規則正しい生活への自覚を促す。 ・学習規律を高め、運動量の増加、効率の良い授業になるよう工夫する。	遅刻者数の減少 体力テストの結果	アンケート等	前期 年度末	○		○		○	
	心の教育	自尊感情を高め 思いやりの心を育てる	・教育活動全体を通じて行う道徳教育を深化、充実させる。 ・いじめは絶対ダメ！を言動に移せるよう、人権教育を組織的に、かつ、教育活動全体を通じて行い、生徒のみならず教職員を含めた人権感覚及び人権意識を高める。	アンケート回答（80%） 実施状況	アンケート等	前期 年度末	○	・いじめへの対応は、組織として取り組んでおり、教員個人が抱え込むことのないよう、情報共有や指導など、チームとして対応にあたれている。 ・生徒を尊重するために、教職員の人権感覚や人権意識の醸成に係る研修は、継続して実施していく。 ・小学校との連携についても、実務者レベルで進むよう、管理職間の連携を密にしていく。	○	・いじめへの対応において、警察等とも連携し、毅然とした対応を心掛けるとともに、関係生徒の心のケアを行うことも大切にして進めることができた。 ・教職員の人権感覚や人権意識については、今後も継続して研修を行うなどして、生徒のロールモデルとなれるよう、研鑽を深めていく。 ・校種間連携については、今年度の課題解消に向けて取組を進めていく。	○	
			★新しい学校のあり方を踏まえ、小中職員が連携し、めざす子ども像の実現に向け、指導方法の工夫改善を進め、合同の研修を実施する。	実施実績	実施状況 アンケート等	前期 年度末	○		△		○	
連携	開かれた学校	★小中連携 地域との連携	校区青少年健全育成協議会と連携し、中学校を核とした行事を通してコミュニケーションを深める。	実施実績 アンケート回答（70%）	各種総括会議 意見等	前期 年度末	○	・野田っ子祭りにおいて、中学校PTAと連携し、生徒も巻き込んでの取組ができた。 ・学校の見学については、可能な範囲で進めていくよう、地域等とも協議していく。	○	・野田っ子祭りについては、持続可能な形を検討しながら、地域との貴重な触れ合いの場としての性格を共有し、継続していく。 ・個人情報保護の観点も大切にしつつ、保護者や地域の欲しい情報をリサーチしながら、魅力ある情報発信を考えていく。	○	
			・学校教育活動について、意見聴取の場を設ける。 ・ホームページ等で学校・地域情報を発信する。また、積極的に学校の教育活動見学の機会を設ける。	アンケート回答（90%）	アンケート	前期 年度末	○		○		○	

校長より(年度末)
・全ての教育活動は、子どもの状況から始まる。そのため、子どもの抱える課題等の背景を丁寧に探り、どうすればポジティブな方向に進むのかを、「誰か」ではなく「みんな」で考えていくための組織作りの大切さを学校全体で共有していきたい。
・誰にとっても「安心・安全」な環境づくりを進めていくために、教職員の意識向上に向けて研修等を重ねていきたい。
・小学校の学びと適切な接続に向け、学校群での取組を全体で考え、考え方などを一つにしていく。

学校関係者評価者から(年度末)
・コミュニティスクール（地域学校協働本部）の立ち上げを検討中です。働き方改革や教員の人材不足などを踏まえ、地域との連携など、子どもたちをたくさんの角度から育成できると良いと考えています。
・評価のために、もう少し具体的な数値などがあると良いのではないかと思う。